

# 名誉会員 榎本 肇博士を偲ぶ

片山 卓也

北陸先端科学技術大学院大学

榎本肇先生が5月13日に亡くなりました。85歳でした。情報通信工学のバイオニアとして数々の研究業績をあげられ、我が国のICT社会の基盤を築かれました。先生の研究の幅は大変広く、電波伝搬、統計的通信理論、信号符号化理論、計算機論理素子、計算機言語、パターン認識、画像処理、オートマトン理論、ソフトウェア工学、サービス工学など、その時代の中心的課題に対して独創的で重要な研究をされました。

先生は東京工業大学電気工学科を1948年に卒業後、通信省電波局に入省され、その後1954年に国際電信電話株式会社に移られるまで、電波行政施行ための基礎技術の研究、特にフェージングの情報理論的研究、散乱伝搬の多重散乱機構の解明などに大きな業績を残されました。これらの研究は単に学問的なものだけでなく、電波法や放送法の制定のための技術基準の確立に重要な貢献をされたものでした。先生の学位論文は主にこの時期の研究成果に基づくものであると聞いています。

国際電信電話株式会社研究所では、多値符号化法、高精度AD変換器、テレビ信号圧縮法などの通信技術、衛星通信方式、電報自動交換方式、論理回路素子、通信制御計算機などの通信方式・システムに関して多様な研究を行い、同社の研究・技術中核としての役割を果たされました。

榎本先生は、1967年に母校東京工業大学の教授に就任され、それまでの所属組織のための目的研究という枠から離れて、新たな情報科学の研究に着手されました。パターン認識機械の自動合成、オートマトンの代表記号列集合、画像処理理論、記号処理言語、自然言語による形式仕様記述言語、サービス工学などの研究をされました。いずれも大変独創性の高いもので、技術の到達度を高めるといふより、新しい考え方や概念を取り入れ、情報科学を豊かにすることに先生の興味の中心があったように思われます。

私が先生の指導を直接受けたのはこの時期ですが、画像構造線、計算機言語の研究を一緒にさせていただきました。画像の特徴抽出の研究はその時期までにすでに多くの研究がありましたが、構造線の研究は数学的にもスッキリした

ユニークなものであり、しばらくの間榎本研究室の中心研究テーマの1つでした。私は助手として多くの学生とともにこの研究に参加しましたが、私が初めて外国で論文発表をしたこともあり、強く印象に残っています。

先生の研究のスタイルは、その分野の関連研究を調べてから研究を始めるというより、まず基本的なアイデアありきでスタートするやり方でした。また、先生がこのように多くの分野で独創的な研究を行えた理由は、その旺盛な好奇心によるものであることに間違いありません。榎本先生と大学時代を共に過ごされ、独自のパターン認識理論を構築された飯島泰蔵先生は、榎本先生を「引出しをたくさん持っている人だ」と評されたことがありましたが、まさにその通りだと思います。



先生の発想は理詰めというより直感的で、当初は理解しにくくても最終的には先生が正しいことが多かったと記憶しています。その典型的な例がサービス工学です。1980年くらいだと思いますが、サービス概念の重要性を研究室のゼミなどで話されており、米国ベル研などでも講演をされたと聞きました。今でこそサービス工学は今後の重要分野として認識されていますが、今から30年も前にこのような提案を行っておられたのは、先生の直感力の凄さです。世界で初めてのサービス工学の提案であると思います。

その先見性や温かい人柄などから、先生のもとには多くの人が相談にこられていましたが、研究室のゼミでも、企業の研究者など多様な方が参加されることも珍しくありませんでした。形式言語理論が盛んになりかけたころ、ゼミでGinsburgのThe Mathematical Theory of Context Free Languagesの輪講を行ったときには、哲学の吉田夏彦先生やKDD研究所から井上誠一室長を始めとして多くの研究者が参加されていたことを記憶しています。

公職を離れた後も研究を続けられ、学会誌に記事を書かれたり、同窓会などで弟子たちに熱く語っておられました。独創的な研究を最後まで追求された先生を失ったことは大変残念です。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

(平成22年6月14日)

## 御 略 歴

1925年 2月16日 生まれ  
1944年 9月 神戸工業専門学校機械科卒業  
1944年10月 東京工業大学航空機工学科入学  
1946年 4月 東京工業大学電気工学科に転科  
1948年 3月 東京工業大学電気工学科卒業  
1948年 6月 通信省電波局入省  
1954年 5月 国際電信電話株式会社入社，研究所勤務  
1960年 工学博士（東京工業大学）  
1967年 5月 東京工業大学理工学部電子物理工学科教授  
1985年 3月 東京工業大学退職  
1985年 4月 富士通株式会社国際社会情報科学研究所長  
1985年 電子通信学会副会長  
1989年 4月 芝浦工業大学工業経営学科教授  
1995年 3月 芝浦工業大学退職  
2010年 5月13日 逝去（85歳）

1960年 4月 情報処理学会入会  
1977年 5月 情報処理学会論文賞（画像構造線の大域的性質に関する計算機実験とその考察）  
1978年 5月～1980年 5月 情報処理学会理事  
1984年 5月～1986年 5月 情報処理学会副会長  
1985年 5月 情報処理学会論文賞（自然言語の語彙分割による形式的仕様記述）  
1990年 5月～1994年 3月 情報処理学会調査研究運営委員長  
1992年 5月 情報処理学会平成3年度功績賞  
1993年 5月 情報処理学会名誉会員

### 受賞・栄誉

1958年 電子通信学会論文賞（マイクロ波の見通し内伝搬におけるフェージング）  
1962年 電子通信学会論文賞（エサキダイオードを用いた高速論理回路）  
1963年 テレビジョン学会丹羽・高柳賞（高精度AD変換器によるテレビジョン信号のPCM）  
1970年 テレビジョン学会丹羽・高柳賞（直交変換によるテレビジョン信号のPCM方式）  
1981年 電子通信学会業績賞（画像処理の基礎的研究）  
1988年 電子情報通信学会功績賞